

事例番号:330063

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第四部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 31 週 2 日 - 前期破水の診断で当該分娩機関に母体搬送となり管理入院

妊娠 31 週 4 日 血液検査で白血球数の増加および CRP の上昇あり

#### 3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

#### 4) 分娩経過

妊娠 32 週 0 日

5:30 陣痛開始

15:30 経膈分娩

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で絨毛膜羊膜炎 stage II

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:32 週 0 日

(2) 出生時体重:1700g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.41、BE -0.3mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

出生当日 早産児、低出生体重児、新生児一過性多呼吸

(7) 頭部画像所見:

生後 36 日 頭部 MRI で脳室周囲白質軟化症の所見を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

### 〈搬送元分娩機関〉

- (1) 施設区分:診療所
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師:産科医 1 名  
看護スタッフ:准看護師 2 名

### 〈当該分娩機関〉

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師:産科医 2 名、小児科医 2 名  
看護スタッフ:助産師 3 名、看護師 1 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、出生までのどこかで生じた胎児の脳の虚血（血流量の減少）により脳室周囲白質軟化症（PVL）を発症したことであると考える。
- (2) 胎児の脳の虚血（血流量の減少）の原因を解明することは困難であるが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性を否定できない。
- (3) 子宮内感染が PVL の発症に関与した可能性がある。
- (4) 早産期の児の脳血管の特徴および大脳白質の脆弱性が PVL 発症の背景因子であると考えられる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価（2020 年 4 月改定の表現を使用）

### 1) 妊娠経過

- (1) 搬送元分娩機関において、妊娠中の管理（妊婦健診、妊娠 17 週 5 日の性器出血症状に対し、リトドリン塩酸塩錠を処方し外来で経過観察）は一般的である。
- (2) 搬送元分娩機関において、妊娠 31 週 2 日、前期破水の診断にて高次医療機関（当該分娩機関）へ母体搬送をしたことは一般的である。
- (3) 当該分娩機関において、妊娠 31 週 2 日、前期破水の診断にて入院後の管理（子宮収縮抑制薬投与、血液検査、抗菌薬投与、適宜分娩監視装置装着）は一

一般的である。

- (4) 当該分娩機関において、妊娠 31 週 4 日、子宮収縮が増強傾向となり、分娩となる可能性があるとして判断しベクタリブリン酸エステルナトリウム注射液を投与したことは一般的である。

## 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 32 週 0 日、陣痛開始・内診所見で分娩進行を認めたため、子宮収縮抑制薬の投与を中止し経膣分娩としたこと、その後に分娩監視装置を連続的に装着したことは、いずれも一般的である。
- (2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (3) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

出生後の対応は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 搬送元分娩機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

前期破水の妊産婦に対し、妊娠 31 週 2 日から妊娠 32 週 0 日に内診を行っている。前期破水においては子宮内と体外が交通しており、内診は感染のリスクを増加させるため、診断は腔鏡診を中心に行うことが望まれる。

### 2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

#### (1) 搬送元分娩機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】児に重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

- ア. 早産児の PVL 発症の病態生理、予防に関して、更なる研究の推進が望まれる。
- イ. 絨毛膜羊膜炎および胎児の感染症や高サイトカイン血症は脳性麻痺発症に関係すると考えられているが、そのメカニズムは実証されておらず、絨毛膜羊膜炎の診断法、治療法はいまだ確立されていない。これらに関する研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。